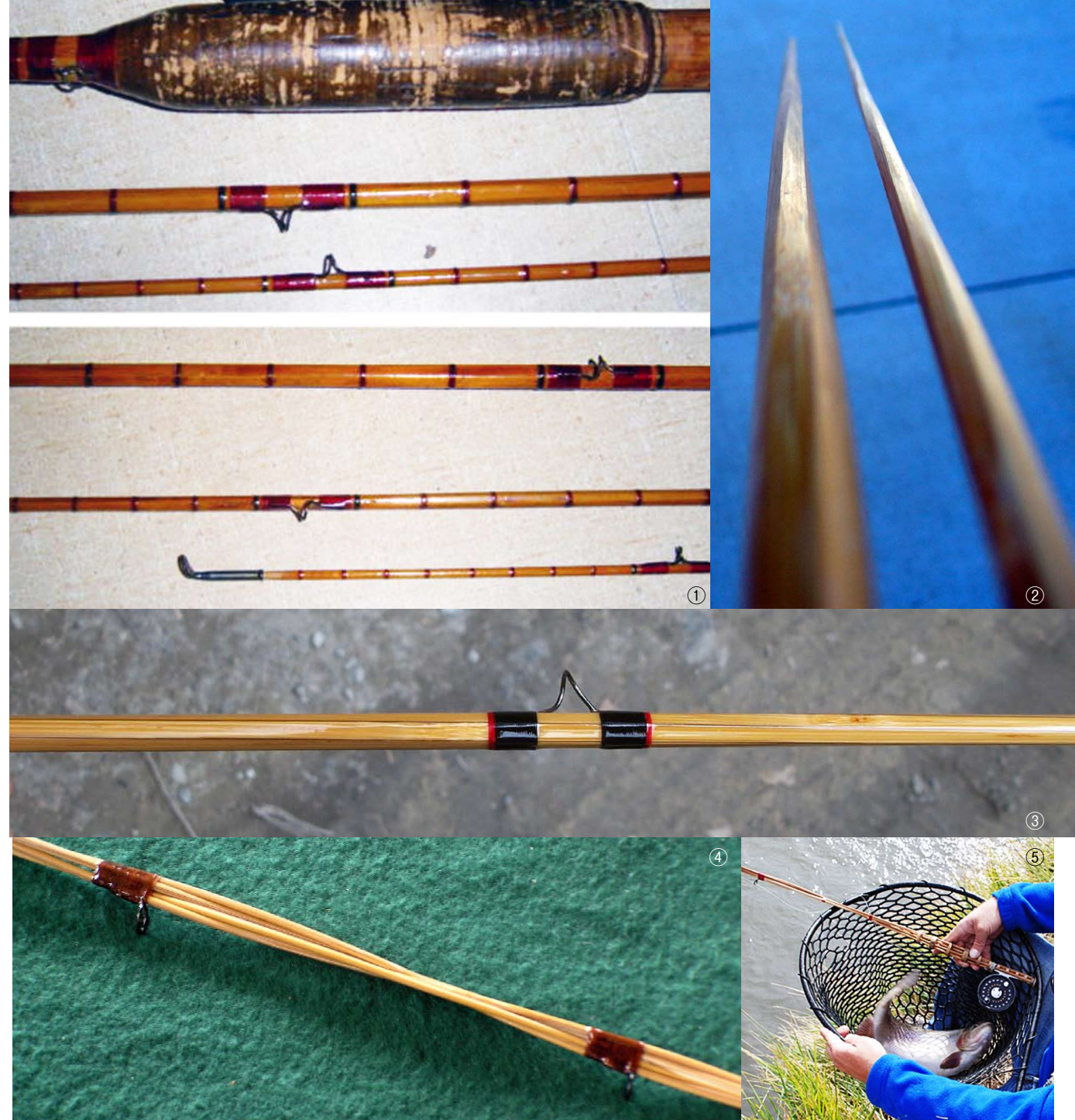


筆者タッド・ラーソン氏（42歳）は歴史学の大学教授で世界最大のバンブーロッド・コミュニティ「The Classic Fly Rod Forum」管理人。本稿は本誌連載のための書き下ろしである。（編）



①非常に珍しいディバインのスパイラルロッド 1900年頃 ②スミスウィックのスパイラルブランク（写真提供：トム・スミスウィック） ③スミスウィックの緩やかスパイラルブレイデッドロッドのブランク拡大（写真提供 アンディー・ミーハン） ④ジェフ・ハットンのプロトタイプのブレイデッドロッドとコロラドのカットスロートレインボー（写真提供：ジェフ・ハットン）

### Radical Bamboo Rod Builders ⑨

# An Old Twist on Cane

## スパイラルロッドとブレイデッドロッド

温故知新のラジカル

バンブーロッドメーカーの冒険家たちは自分がどこまでできるのか、その境界線を今も押し広げている。

text Todd E. Arai Larson

タッド・ラーソン/シンシナティ州/ホワイトフィッシュ・プレス

translation 永野竜樹

ながのたつき/東京都

### 楽しくて使い勝手がいいロッド

現代ではかなり忘れ去られているが、スパイラルロッドの開発は、バンブーロッド製作の技術においては大きな進歩だった。

バンブーロッド・メーカーングでは20世紀前半で最も重要といわれる本『ザ・アングラーズ・ワークショップ』（1908年）を著した大御所のペリー・フレイザーは、著作の中で次のように記している。

「6本ないし8本のストリップからロッドを作るといってお決まりを脱する大きな変化がひとつだけあった。晩年のフレッド・ディバインが数年前に取得した特許だが、接着剤がまだ硬化していない状態で6本のストリップを少し捻り、ブランクをらせん状にする。その後ロッドはその状態のまま硬化させられるが、ロッドの上部だけ、あるいは下部だけが捻られるのではなく、6本のストリップ全体が捻られるようにする。このロッドはよく考えられていて、私も使用してみたが、楽しくて使い勝手の良いロッドだ。」

このようにスパイラルロッドは将来を嘱望されたアイデアであったため、その後多くのロッドメーカーがディバインに追随すると思われた。

しかし記録によればカルフォルニア州のサミュエル・ギア・オリンというロッドメーカーだけがスパイラルロッドを少し製作したに過ぎなかった。

スパイラル、ないしツイステッドロッドはどれくらい古いものなのだろうか？

1875年12月30日付けの雑誌『フォレスト&ストリーム』では、高級ブランドのアービー&インブリーの新品として、ランスウッド製の燃ったフライロッドの記事に取り上げている。「私たちが試したこのロッドは、興味深い外見で、その作りは独創的である」と雑誌は述べている。

「販売価格は20ドル」とされているが、1875年当時の平均的な日当が2.50ドルだったところからするとそのロッドは相当高価な商品だったといえる。

歴史をさらに遡ろう。1840年代と記されるジョセフ・エイムスの釣りを描いた絵には、なんとスパイラルロッドがはつきりと描かれている。したがって、まっすぐなロッドを捻るという行為は、150年以上前から行われてきたことになる。

### スパイラルの先祖、F・ディバイン

しかし近代のスパイラルロッドならば、ニューヨーク州のユチカでロッドショップを開いていたフレッド・D・ディバインが有名だ。彼は1892年6月7日にスパイラルロッドの製造方法で特許を取得している。

この特許のなかでディバインは、「ロッドのどの部分をとってもブランク

これまで2年に渡り『フライの雑誌』に連載してきた本シリーズでは、普通とは違う製作方法をとるバンブーロッドビルダーを数多くカバーしてきた。今回は特定のビルダーを取り上げるのではなく、ラジカルな製作方法そのものに焦点を当ててみたい。

できあがったロッドを見ただけでは、あまりの特異ないでたちに、それが何をもたらしてくれるのか、誰も想像することすらできないだろう。しかしよく調べていくと、この手のロッドは150年も前から存在している、今も勇氣と才能にあふれるロッドメーカー達の手によって改良が加えられている。

### ブランクを捻ったフライロッド

スパイラルロッドに関する最近の製作方法やビルダーの話をするまえに、昔に戻って、ツイステッドロッドとも呼ばれるスパイラルロッドの伝統や歴史について調べてみよう。

呼んでその名の如し、まず普通のバンブーロッドを思い浮かべて欲しい。次にロッドのどこの部分でもいいから1〜6回ほどブランクを捻る。すると伝統的なスパイラルロッドのできあがりだ。